

経済マンスリー [原油]

OPEC 総会後に急落した原油価格

原油価格が急落している（第 1 図）。WTI（期近物）は 11 月中、1 バレル＝40 ドル台前半で軟調に推移した。12 月に入り、4 日の石油輸出国機構（OPEC）総会で減産が見送られるとともに、声明で生産目標（日量 3,000 万バレル）への言及がなかったことから、供給過剰懸念が一段と強まり、7 日の WTI は前週末比▲2.32 ドルの同 37.65 ドルと 2009 年 2 月以来の安値に急落した。11 日には国際エネルギー機関（IEA）が月報で「供給過剰は 2016 年末まで続く」との見方を示したことを受けて、WTI は同 35.62 ドルとさらに値を下げた。足元では同 35 ドル近辺で推移している。

今年も OPEC 総会後に原油価格が急落するという、昨年と同じ展開になったが、今年も減産見送りが広く予想されていたにもかかわらず原油価格は急落した。これは、生産目標が事実上棚上げされたことで、OPEC として原油安に対応しない姿勢がより鮮明となり、供給過剰の解消に時間を要すると市場が認識したためとみられる。

生産目標が棚上げされた背景には、①ロシア等非 OPEC 諸国との協調減産なら受け入れるとするサウジアラビアと、OPEC 単独での減産を主張するベネズエラなど、加盟国間の主張に大きな違いがあったこと、②今年に入り OPEC の生産量は目標を大きく上回って推移しており（第 2 図）、いわば形骸化した目標に言及するのは実態に沿わないこと、があったとみられる。

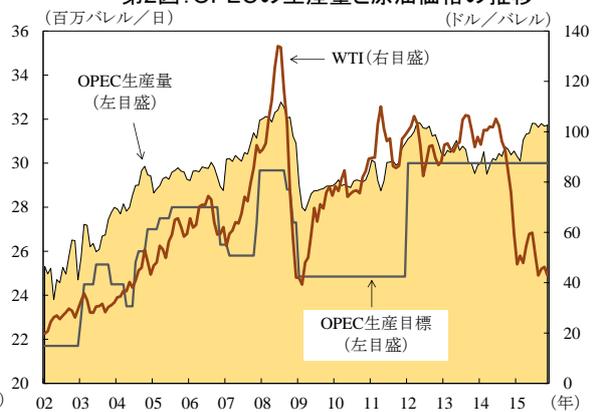
OPEC の生産量は過去と比べても高い水準にあるが、来年以降さらにイラン増産分が加わる可能性が一段と高くなっている。12 月 15 日、国際原子力機関（IAEA）はイラン核開発疑惑解明の終了を盛り込んだ決議案を全会一致で採択し、制裁解除に向けて前進した。制裁解除後のイランの原油増産を市場は既に織り込み済みとみられるが、今後、制裁解除の時期が具体化した際には、原油価格をもう一段押し下げることがあり得よう。

第1図：原油価格（WTI期近物）の推移



（資料）Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図：OPECの生産量と原油価格の推移



（資料）IEA資料、Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo_takeshima@mufg.jp
篠原 令子 reiko_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページでもご覧いただけます。